

ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

I. 理念・目的

1 目的・目標

(1) ボランティアセンターの理念・目的

正課外教育の観点から、学生のボランティア活動を推進し、そのことを通して学生の社会性及び自主性を涵養し、社会に有用な人材を育成しようという理念に立っている。その理念の下で、明治大学ボランティアセンター（以下、VC）規程第1条では、学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、社会に貢献し得る有用な人材を育成することを目的とする、と規定されている。

2 現状（2010年度の実績）

(1) センター、委員会等の理念・目的は適切に設定されているか

①理念・目的の明確化

明治大学ボランティアセンター（以下、VC）規程第1条で設定されている。

②実績や資源から見た理念・目的の適切性

明治大学VCは、上述のような目的の下で、駿河台、和泉及び生田の各キャンパスに設置されている。

VCでは、学生のボランティア活動を支援するため、大別して次の4つの業務を行うこととしている。

- 1 ボランティア活動に関する情報収集・広報活動
- 2 ボランティア活動に関する相談・支援
- 3 ボランティア活動に参加する学生の人材養成
- 4 ボランティア活動に関する調査・研究

2010年度における各キャンパスVCの活動実績は次の通りである。

[駿河台VC]

駿河台VCでは、千代田区と連携して防災をテーマにして、特徴ある活動を行うことを目指している。

ア. エコキャップ班「学生スタッフによるエコキャップ運動」の開始

イ. 「エコキャップ週間」の開催（エコキャップがワクチンに変わるまでの説明・エコキャップアートの作成展示他）

ウ. 「災害救援ボランティア講座」の開催（年2回）

エ. 千代田区社会福祉協議会・ちよだボランティアセンター主催「国際ボランティアデー・チャリティーイベント」“帰宅訓練”実施に伴うエイドステーションの開設提供

- オ.「東京6大学ボランティアセンター交流会への参加（駿河台VC・エコキャップ班，生田VC・里山班）」
- カ.「明大生のための防災講演会」の開催
- キ.「千代田区帰宅困難者避難訓練（総合防災訓練）」への参加
- ク.「災害救援班」の活動

[和泉VC]

和泉VCでは，杉並区と連携して福祉をテーマにして，特徴ある活動を行うことを目指している。また，和泉キャンパスはサークル活動の拠点でもあるので，ボランティア系のサークルとの連携も重視している。視覚障害の子供達の自立支援を目的としたフリークライミング体験会へ協力した。本格的な活動を開始して3年目にあたり，ボランティア系のサークルとの連携については，ほぼ当初予定していたものが出揃って，プログラムも充実してきている。なお，2009年度に開催した「初級ボランティア講座」は，2010年度から，学部間共通総合講座「ボランティアセンター発のボランティア入門講座」として正課教育のプログラムになった。

- ア. 明大前駅周辺の清掃ボランティア活動
- イ.「フリークライミング体験会」の開催（10回）
- ウ. ボランティア系のサークルとの連携による「エコキャップ運動」の展開，「ECO ども」の開催，遺失物販売での協力，障害者によるパン販売。

[生田VC]

生田VCでは，川崎市多摩区と連携して里山をテーマにして，特徴ある活動を行うことを目指している。3地区VCの中では，最も早く，その特長を活かした活動が進められているとともに，M-Naviプログラムとの連携についても充実している。なお，「里山班」の活動は，学部間共通総合講座「里山入門」がすでに正課教育のプログラムに組み込まれていることが，その母体を創り出す上で，重要な役割を果たしていること付言しておく。

また，2012年度からの「明治大学黒川農場」の開設に合わせて，里山班の活動するフィールドを拡大する予定のため，今後は，これまでの3年間の活動を検証し，新たな次のステップに向けた活動のステージを確立することが肝要である。

- ア.「ふるさと清掃運動会」への参加
- イ.「里山班」の活動
- ウ.「エコキャップ班」の活動
- エ. M-Naviプログラム「里山ボランティア」の開催
- オ. 里山ボランティアフォローアップ講座の開催
- カ.「花と緑の交流会」「東京六大学ボランティア交流会」等学外の催し物への積極的な参加。

以上のように，本格的な活動を開始して3年目にあたる2010年度，各VCの活動は充実したプログラムへと進化しきれていない部分を内包しつつも，活動のメニューとしてはかなり出揃ってきている。この実績からみて，VCの理念と目的は十分に適切であると考えられる。

③ 個性化への対応

VCの活動を個性化するために、先行している他大学の事例を見学・視察するとともに、VC担当者や他のボランティア関係団体の担当者と情報及び意見交換する等、調査・研究を進めている。2010年度は、関西の2つの大学におけるVCの見学・視察を実施した。

一方、駿河台・和泉・生田の各キャンパスにVCが設置されているが、大学構成員に理念・目的を始め、その活動内容、加えてVCの場所などの基本情報についても、必ずしも十分に周知されているとは言いがたい側面もある。そのため、今後はこれらを含めた情報発信に務める必要がある。

(2) センター、委員会等の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか。

2008年度は教職員に対して、活動や関心領域に関するアンケート調査を実施したのに対して、2009年度のHPの立ち上げを行った。学生も含めた周知方法は、HPの活用とポスターなどの掲示と窓口における働きかけが主体となっている。規程や登録要領などをVCのHPに公開している。

(3) センター、委員会等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

VCの理念・目的等を検証する仕組みは、まだ導入していない。現状では、後述するボランティア運営委員会が業務の計画を立てる段階で、これまでの事業を当VCの目的との関係において検討し、それについて業務・計画を見直すことになっている。しかし、業務の稼働が始まったばかりであり、検証作業には手が付けられていない。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

- ・ 2010年度は人員整備・予算整備が整いすべての地区のVCが本格的に稼働をはじめた。
- ・ 各校舎のVCでは、それぞれ特色ある取組みを展開している。駿河台VCは、千代田区との連携による災害救援ボランティア活動を行うなど「災害」「防災」をテーマに展開している。和泉VCは、学生団体と障害者によるパン販売を行うなど「福祉」をテーマに展開している。
- ・ 生田VCでは、ペットボトルのキャップを回収する「エコキャップ班」の学生が2009年度から活動を開始した。2010年度は、通常のキャップ回収にとどまらず、回収後のキャップがワクチンの寄付金になるまでの流れを調査したり、近隣の小学生に「エコキャップ運動」の啓蒙をしたりするなど、活動の発展・充実を見た。因みに、2010年度に回収したエコキャップの数は、「121,880個」に上り、ポリオワクチン152人分（800個でワクチン1人分）を贈ることができた。

(2) 改善すべき点

- ・ ボランティアセンター運営委員会において、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業が十分に行われていない。センターの理念・目的等を検証する仕組みを導入する必要がある。
- ・ 各VCの活動を充実したプログラムへと進化させていくには、現状の人員構成では限界がある。VCを担当する学生支援事務室所属の専任職員4名は、課外活動と兼務であり、十

分な対応ができないことが少なくない。専らセンター業務に従事する嘱託職員3名については、学外で開催される研修会等に派遣し、資質向上に努めている。しかし、基礎的な知識を得ることが精一杯であり、VCの活動全般を指導し、プログラムの一層の充実にあたって大きな限界がある。専門知識を有するボランティア・コーディネーターの採用が求められる。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

- ・ 駿河台VCでは2010年度より学生スタッフを募集し「エコキャップ運動」を本格稼働させた。
- ・ 和泉VCでは全面的にボランティアサークルに依存しない体制を目指すために、学生スタッフの導入を推進し、ボランティア活動の活性化を図る。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

- ・ VCの活動が本格化する過程において、今後、学部等で行われているボランティア活動との連携・協力の課題は、遠からず表面化するものと思われる。そのため、教学組織とどのような連携・協力が可能であるかについて、センター事務担当者間で協議の上、ボランティアセンター運営委員会において検討の俎上に載せる。
- ・ VCを統括・企画・運営し、業務の高度化を図るために、ボランティア推進業務に伴う専門知識を有するボランティア・コーディネーターの配置が必要である。
- ・ ボランティアセンター運営委員会で業務計画を検討し、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定を定着させる。次に、ボランティアセンター運営委員会で、どのような検証の仕組み導入すべきかについて検討する。

5 根拠資料

資料1 明治大学ボランティアセンター規程

II. 教育研究組織

1 目的・目標

(1) 教育研究組織の編成方針

本大学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として、学長の下に明治大学ボランティアセンター（以下、VC）を設置している。

VCはセンター長（学生部長）と副センター長（駿河台・和泉・生田の担当3名）、および運営委員（学長が指名する専任教職員6名、学生支援部長、学生支援事務長、和泉および生田学生支援事務長4名）から組織されている。運営委員会は、年1回、前年の業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業を行っている。VCの実質的な運営は、この運営委員会の下に3地区に組織されているボランティア活動支援分科会が担っている。各地区の実情に即した運

営が、VCの特徴となっている。

VCには、センター担当（他業務と兼務）の学生支援事務室所属の専任職員4名（3キャンパス）と、専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（各キャンパス1名）を置いている。

2 現状（2010年度の実績）

(1) センター、委員会等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

① 教育研究組織の編成原理

VCは、センター長（学生部長）のもとに、駿河台・和泉・生田の各VCが置かれ、それぞれ副センター長を補佐している。

上記センター長等以外に、専任教職員や学生支援部事務管理職からなる運営委員を選出して、ボランティアセンター運営委員会を構成している。運営委員会の下には、3キャンパスに活動支援分科会が置かれ、必要な審議を行っている。

② 実績や資源から見た理念・目的の適切性

全学報告書第8章参照。本格的な活動を開始して3年目にあたる2010年度、各VCの活動は充実したプログラムへと進化しきれていない部分を内包しつつも、活動のメニューとしてはかなり出揃ってきている。この実績からみて、VCの理念と目的は十分に適切であると考えられる。

③ 学術の進展や社会の要請と適合性

各ボランティアセンターでは、それぞれのキャンパスが属している地域と連携した活動も展開しており、社会の要請に適合した活動を行っているといえる。

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

特に実施していない。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

運営委員会の下に3キャンパスに組織されているボランティア活動支援分科会が、各キャンパスの特色を活かした活動メニューを整備してきている。

他大学のボランティアセンター担当者やボランティア関係団体の担当者との情報及び意見交換することにより、担当線に職員および嘱託職員のSDと、日常業務の方法・課題について改善とを、ある程度まで図ることができるようになった。

(2) 改善すべき点

各VCの活動を充実したプログラムへと進化させていくには、現状の人員構成では限界がある。VCを担当する学生支援事務室所属の専任職員4名は、課外活動と兼務であり、十分な対応ができないことが少なくない。専らセンター業務に従事する嘱託職員3名については、学外で開催される研修会等に派遣し、資質向上に努めている。しかし、基礎的な知識を得ることが精一杯であり、VCの活動全般を指導し、プログラムの一層の充実にあたって大きな限界がある。専門知識を有するボランティア・コーディネーターの採用が求められる。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

教育組織としての適切性を逐次検証するための手続き・方法，そして組織を検討することが必要である。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

VCを統括・企画・運営し，業務の高度化を図るために，ボランティア推進業務に伴う専門知識を有するボランティア・コーディネーターの配置が必要である。

5 根拠資料

資料1

VIII 社会連携・社会貢献

1. 目的・目標

(1) 社会連携・社会貢献の方針

学生部に関わるものでは，正課外教育および課外活動を通じて行われる社会・地域貢献を推進し，その活動が円滑に行われるように指導・助言するとともに，そうした活動のための条件整備を進めることを目的とする。

2. 現状（2010年度の実績）

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか

検討中

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか

学生部に関係するものとしては，以下の2つが重要である。

(1) ボランティア活動およびその支援については次のような活動を行っている。

本学には6つのボランティア系サークルがあり，現在VCとの連携を図りながら，ボランティア活動を継続している。

VCは，各キャンパスの地元自治体や社会福祉協議会(ボランティアセンター)と連携し，ボランティアに関する情報を集約したものを学内のボランティア情報専用掲示板に貼り出し，情報の提供・周知に努めている。また，NPO，NGO等各種団体からのボランティア募集情報は，学生へのボランティア情報提供に関するガイドラインを定め，それに適う情報を学生に提供している。

各キャンパスのVCは，キャンパスの所在する自治体と連携を図りながら，それぞれ活動の具体化を図り，次のような独自の取組みを行っている。

〔駿河台VC〕

千代田区と連携して「災害」「防災」をテーマに活動しており，2010年度には下表の活動を行った。

活動	開催日時	開催場所	参加者
----	------	------	-----

「災害救援ボランティア講座」 (前期開催)	5月22日(土)・23日 (日)・30日(日)	リバティタワー・本 所防災館	40
「災害救援ボランティア講座」 (後期開催)	10月3日(日)・23日 (土)・24日(日)	リバティタワー・本 所防災館・専修大学	40
明大生のための防災講演会	12月21日(火)	リバティタワー	33
「千代田区帰宅困難者避難訓 練(総合防災訓練)」	1月17日(月)	秋葉原・四ツ谷	11

[和泉VC]

ボランティアサークルと連携し「福祉」をテーマに活動をしており、2010年度には下表の活動を行った。また、毎週火曜日、ボランティアサークルが中心となり、スワンベーカーリー十条店に勤務する障がい者と協働して、パンの販売を実施している。さらに、キャンパス最寄り駅である明大前駅周辺の清掃ボランティア活動を2010年度は年間45回実施し、延べ252名の学生ボランティアが参加した。

活動	開催日時	開催場所	参加者
ECOども※1	10月30日(土)	和泉体育館	27
フリークライミング体験会(第 一クール計5回)※2	6月6日(日)・20日 (日), 7月4日(日)・ 18日(日), 8月1日 (日)	和泉体育館クライ ミングウォール	15
フリークライミング体験会(第 二クール計5回)※2	10月17日(日)・24 日(日), 11月7日(日)・ 21日(日)・28日(日)	和泉体育館クライ ミングウォール	7

※ 1 「ECOども」は、ごみ分別クイズ・ゲームなどにより環境問題への理解を深める児童向けイベント

※ 2 「フリークライミング体験会」は都立久我山盲学校の児童・生徒に対して学生ボランティアが支援することにより、クライミングウォールを自力で登ることを目標にした体験会である。

[生田VC]

里山ボランティアを中心に、川崎市多摩区との地域連携による行事など「里山」をテーマとした活動を展開している。この活動の中核となるのが生田VC「里山班」で、2010年度は「里山班」学生スタッフ14名が中心となり、草刈り等の保全活動、タケノコ掘り、近隣住民等も参加しての植物・野鳥・ホタル観察会、野鳥・水辺の生物調査等を開催した。また、里山の環境保全ボランティア活動を通じて、ボランティア学生スタッフと生田地区ボランティア活動支援分科会メンバーとの連携が図られている。

2009年度に発足した「エコキャップ班」は13名の学生スタッフが中心となり、生田キャ

ンパス内のエコキャップの回収活動を継続するとともに、学生スタッフ自らが企画したエコキャップについてより理解を深める活動や近隣との連携・交流活動も行っている。

さらに、2010年度から、「里山班」「エコキャップ班」とも生田キャンパスに本拠を置く大学公認ボランティアサークル（3団体）と連携しての活動が始まった。生田VCではこれらボランティアサークルに対しても、活動のサポートを行っている。

以下に、2010年度に実施した各班の活動のうち、主なものを挙げる。

【里山班】

活動	開催日時	開催場所	参加者
タケノコ掘り	4月19日（月）	生田キャンパス内	23
M-Navi「里山ボランティア講座」	5月8日（土）	川崎市麻生区立多摩美健康の森	17
植物観察会	5月25日（火）	生田キャンパス内	19
里山ボランティアフォローアップ講座	8月7日（土）	生田キャンパス内	21
里山ワークキャンプ in 庄原	9月5日（土） ～11日（金）	広島県庄原市	6
ふるさと清掃大運動会	10月16日（土）	生田キャンパス周辺	18
明大祭 M-Navi「My竹箸作り」	10月30日（土） ・31日（日）	和泉キャンパス	100
生明祭（竹箸作り，里山の生物展示，活動成果発表）	11月19日（金） ～21日（日）	生田キャンパス	135
2010花と緑の交流会	11月28日（日）	川崎市高津区高津市民館	3
落ち葉かき	12月4日（土）	生田キャンパス内	11
東京6大学ボランティア交流会	12月11日（土）	法政大学市ヶ谷キャンパス	5
里山ワークキャンプ in 庄原	2月11日（金） ～17日（木）	広島県庄原市	6

※ これらの活動の他に、教職員及び学生スタッフによる活動の方針策定・内容検討・検

証等のための会議を年間 57 回開催した。

また、植生管理・調査・観察等の平常の活動は年間を通して行った。

【エコキャップ班】

活動	開催日時	開催場所	参加者
日本テレビ エコハートイベント	6月5日(土)・6日(日)	東京都渋谷区 SHIBUYA-X	6
エコキャップ回収工程・エコプライ製造工場見学	8月4日(水)	千葉県木更津市 NPO 法人あゆみ会, (株) 東京木工所 他	9
川崎市立三田小学校との交流	10月4日(月)	川崎市立三田小学校	21
生明祭(展示, 活動内容発表)	11月19日(金) ~21日(日)	生田キャンパス	113
認定NPO 法人世界の子どもにワクチンを日本委員会 11月ボランティアデー	11月27日(土)	東京都千代田区 認定NPO 法人世界の 子どもにワクチン を日本委員会	11
川崎市立三田小学校との交流	12月6日(月)	生田ボランティア センター	21
認定NPO 法人世界の子どもにワクチンを日本委員会 タジキスタン共和国視察報告 会	12月18日(土)	東京都千代田区 認定NPO 法人世界の 子どもにワクチン を日本委員会	11

※ これらの活動の他に、教職員及び学生スタッフによる活動の方針策定・内容検討・検証等のための会議を年間 36 回開催した。

また、キャンパス内でのエコキャップの回収は年間を通して行い、2010年度は 121,880 個のキャップを回収し、回収団体に寄付した。これは、152 人分のポリオワクチン代に相当する。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

VCにおける様々なプログラムを通じて、学生の社会性及び自主性が涵養され、社会・地

域との関わりが生まれている。

(2) 改善すべき点

VCについては、全キャンパスにおいて、その活動を具体化した。今後、活動を続けていくためのシステムやルール作りを急ぐとともに、活動の範囲や輪をさらに推進し発展させていく必要がある。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

VCでは同運営委員会、日常的な運営を担当する各キャンパスの活動支援分科会を設けている。この2つの組織の活動を実質化することによって、活動のためのシステムやルール作りと活動の具体化を早急に進めることとしている。

(2) 長中期的に取り組む改善計画

VCをより充実、発展させるためには、専門知識を有するボランティア・コーディネーターが求められる。将来的には、ボランティアセンターの業務を高度化するために、専任職員の配置も視野に入れる必要がある。現行では、各地区ボランティアセンターともに専任職員は配置されておらず、学生支援事務室職員が兼務で行うケースが多くなっており、実務的にみて負担増となっている。このため、各地区ボランティアセンターを統括し、企画・運営をする専任の職員を配置することが急務である。

5 根拠資料

資料1 2012年度 教育・研究に関する長期・中期計画書（学生部）

Ⅸ 管理運営・財務

[Ⅸ-1 管理運営]

1 目的・目標

(1) 管理運営方針

学生のボランティア活動に関する情報収集、広報活動、相談、支援、調査、人材養成等の実務を通し、ボランティアセンター（以下、VC）の目的を達成する。

2 現状（2010年度の実績）

(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか

予算管理要領第4条第1項の規程に基づく教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書を作成し対応している。

(2) 明文化された規定に基づいて管理運営を行っているか

明治大学ボランティアセンター規程を整備している。センター長は学生部長が務め、学長の下でセンター業務を総括し、センターを代表する。

(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか

VCに関する事務は、学生支援部学生支援事務室が行う。センター担当（他業務と兼務）

の学生支援事務室所属の専任職員4名（3キャンパス）と、専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（各校舎1名）を置いている。

(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか

- ① 人事考課に基づく適正な業務評価と処遇改善
当運営委員会にはなじまない項目である。
- ② スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施状況と有効性
学外で開催される研修会等に専任職員及び嘱託職員を派遣し、資質向上に努めている。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

- ・ SDに関して、他大学のボランティアセンター担当者やボランティア関係団体の担当者との情報及び意見交換することにより、日常業務の方法・課題について改善を図ることができる。

(2) 改善すべき点

- ・ 企画立案から実施までが、VC運営委員会および担当の専任職員・嘱託職員に限られており、VCが中心となって行う活動の輪がなかなか広がらない。
- ・ SDに関して、専任職員及び嘱託職員ともに、ボランティアに関して専門的に学んだ職員がいないために、独自の企画立案や外部団体とのネットワークの形成に制約がある。VCの活動全般を指導し、プログラムの一層の充実にあたって大きな限界があるので、専門知識を有するボランティア・コーディネーターの採用が求められる。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

(2) 長中期的に取り組む改善計画

ボランティアに関して専門的に学んだボランティア・コーディネーターを特別嘱託職員として採用する方向で検討を進めている。

5 根拠資料

資料1 明治大学ボランティアセンター規程

X 内部質保証

1 目的・目標

(1) 内部質保証の方針

ボランティアセンター（以下、VC）は、本大学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として設置された。この目的に基づいてセンターの事業が実施されているかを検証するため、自己点検・評価を実施している。

2 現状（2010年度の実績）

(1) センター、委員会等の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか

検討中

(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか（学外者の意見の反映などを含む）

ボランティアセンター運営委員会で対応している。自己点検・評価を実施し、その結果を次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」に反映することで、改革・改善につなげている。

本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会で対応することになっている。

3 評価

(1) 効果が上がっている点

(2) 改善すべき点

ボランティア運営委員会において、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業が行われていない。

4 将来に向けた発展計画

(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

(2) 長中期的に取り組む改善計画

- ・ まず、ボランティア運営委員会の課題として、1年ごとの業務の検証と、それを踏まえた計画策定を定着させる。
- ・ ボランティアセンター運営委員会に、自己点検・評価を担当するワーキンググループ等の設置を検討する。

5 根拠資料

資料1